

# 平成21年度 学校研究（案）

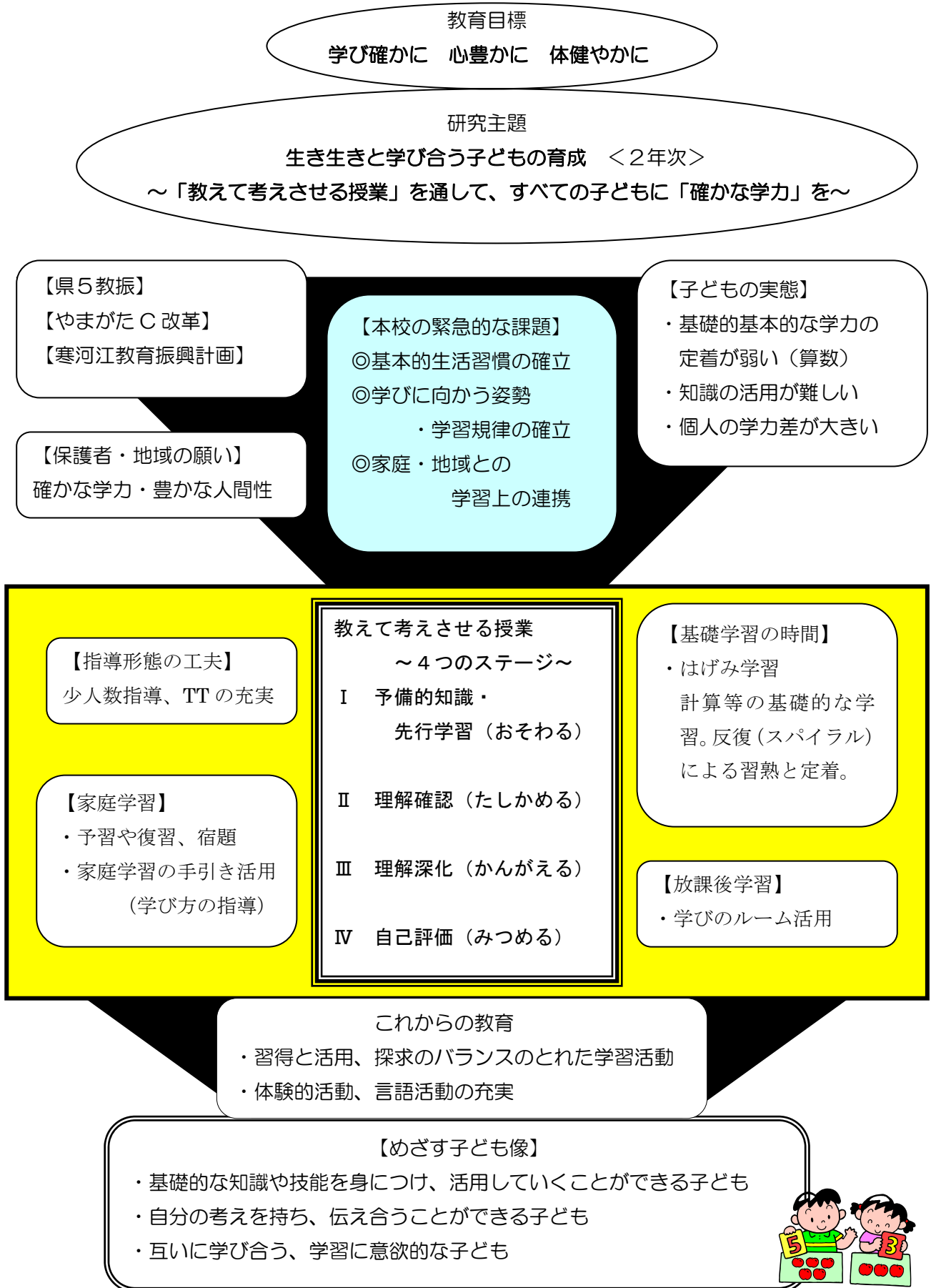
研究テーマ

生き生きと学び合う子どもの育成 <2年次>

～「教えて考えさせる授業」を通して、すべての子どもに「確かな学力」を～



1 研究の全体構想図



## 2 研究主題について

### (1) 主題設定の理由

新しい学習指導要領においては、「生きる力」を実現する手立てを明確にして、児童一人ひとりに「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育てることが求められています。

「生きる力」とは「知識・技能だけでなく、思考力・判断力・表現力・課題発見力・問題解決能力といった力、さらには、学ぶ意欲や学び方などを総合的にとらえた学力」です。

本校では、昨年度「生き生きと学び合う子どもの育成」を研究テーマに、課題の捉え方や学び合いに視点を当てて授業作りを行ってきました。

その結果、子どもの興味関心を引く授業の流れや導入の工夫がなされ、意欲的な学びにつながる学習が展開されました。また、ペア・小グループ活動等を通して、友達の考えのよさに気づいたり関わり方もわかってきたりしたところです。しかしながら、以下のような課題も出ました。

- ①本時（もしくは単元）のねらいの焦点化
- ②算数が楽しいと思える達成感（基礎的・基本的な内容の底上げ）の充実
- ③レディネスや既習事項の確認
- ④一時間の中での練習問題をやる時間の確保
- ⑤話し合いにおける学び合いの質の向上

これらは、わたしたちが、すべての子どもたちに確かな力をつけたいという願いの象徴でもあります。それは、新しい学習指導要領の「確かな学力」の指導（基礎的・基本的な知識・技能をしっかりと身に付けさせる指導をすること）が重要であることと重なります。子どもたちの自主性を尊重することと、教えることを抑制することは違い、学ぶ意欲を高めながら、教えて考えさせる指導をすることが、今、求められているのでしょうか。

本校の研究の土台は、日々の「授業実践」

です。授業をよくすることで、子どもが「わかる」喜び、「できる」楽しさを味わい、次の学習への意欲を喚起することができるでしょう。学校生活の大半を占める授業が待ち遠しく、楽しいものになれば、当然学校生活も楽しいものになるに違いありません。どの子どもも毎日授業を楽しみにしてくる学校であれば活力のみなぎる魅力ある学校となります。即ち、学校改善を図ることができるのです。従って、本校の研究は、学校改善そのものだと言えると思います。

学校教育目標を実現するための第一義が授業であり、我々は、プロの教師集団として、子どもにとって「わかる」「できる」楽しい授業を求め、学年・フロア・学校協力指導体制を生かしながら、【生き生きと学び合う子どもの育成】をテーマに、今年度は特に「教えて考えさせる授業」に視点を当てて研究を進めていきたいと思っています。

### (2) 研究の視点

研究にあたっては、昨年度の本校の課題から、教えるべきことをきちんと習得させ、問題解決を通して、思考力、判断力、表現力を育てるべく「教えて考えさせる授業」を、授業の方法的な視点としました。

教科書に示されているような基礎的な知識・技能を習得させ、活用できるようにすることは、日々の授業のめざすところです。確かな学力を育ててめざす子ども像に迫るためには、学校として共通の視点に立つ授業を展開しなければなりません。

そのような観点から「教えて考えさせる授業の考え方」をよりどころにして、南部スタイルを確立していきたいと考えています。

また、「確かな学力」を育てるためには、学習の規律や習慣を育て、学習内容の習熟と定着を図ることが必要ととらえ、以下のように、授業と関連する取り組みをしていきたいと考えました。

### ①はげみ学習の導入

- ・反復（スパイラル）による基礎の習熟と定着させる。

### ②家庭学習の手引きの作成

家庭で勉強する習慣を身に付けさせるとともに、授業の予習や復習にも生かせるように勉強の仕方を記した手引きを配付し、家庭の協力を得て学習習慣を育てる。

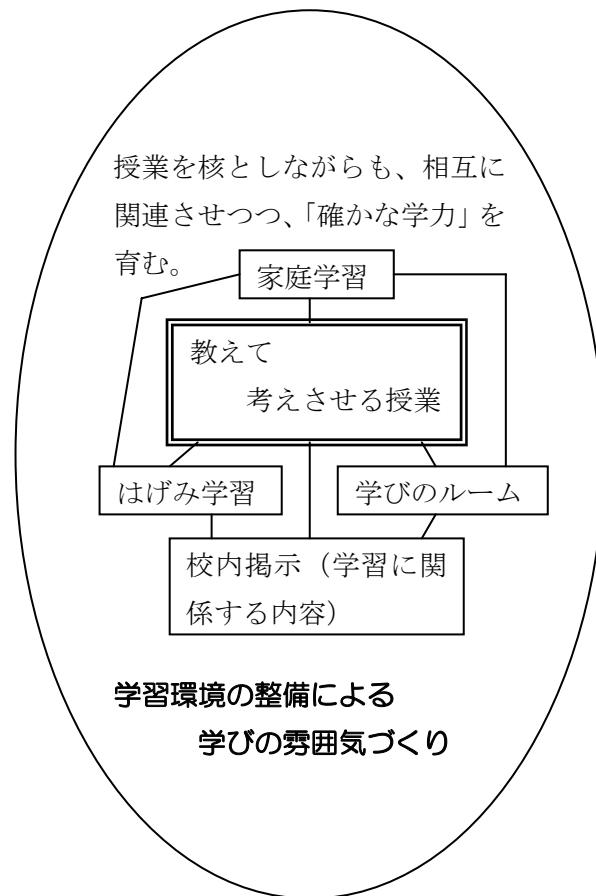
### ③学びのルーム活用

授業でのつまずきに対応するとともに、個々の学習状況に応じた指導を通して、学び方も身につけさせる。

## (3) 研究の進め方

めざす子ども像にせまるために、「算数」で、「教えて考えさせる授業」を中心に進めていきます。

※詳細は、4の研究計画による。



## (4) 研究の仮説と重点

### 仮説1 (指導の工夫)

教えて考えさせる授業を通して、教師の説明の工夫や子ども同士の教え合いを充実させれば、子どもたちの理解が確実になり、「わかる」「できる」楽しさを実感させられるのではないか。

### 仮説2 (自己評価の工夫)

授業の途や終末等に、子どもがどこまで理解したかをていねいに見取ることで、一人ひとりのつまずきに対応でき、その後の指導に生かすことで、確かな学力が保障できるのではないか。

### 仮説の重点

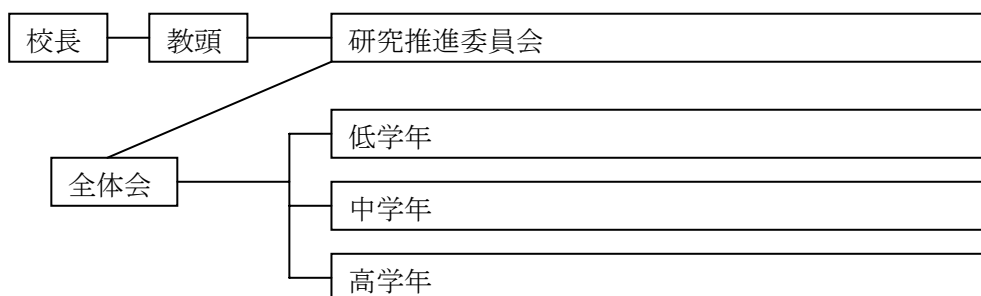
1について…①教師からの説明の工夫（演示、具体物、映像や写真、身近なものへの置き換えなど）

②「理解確認段階」でのペア学習等の工夫、「理解深化段階」でのグループ学習等の工夫

2について…①自己評価のさせ方の工夫（挙手、ネームカード、数値化など）

②見取ったあとの対応（指導）の工夫

## 3 研究の組織図



#### 4 研究計画

##### (1)「教えて考えさせる授業」について

教えて考えさせる授業とは、東京大学の市川伸一教授が提唱するものです。「習得と探求の学習バランスと結びつきを大切にすること」を前提に「習得型の学習においては、教師がていねいに教え、子どもに考えさせ、子どもの理解状況を把握する手立てを講じながら、知識や技能を身に付けさせる授業」になります。

これをもとに南部小では、教えて考えさせる授業を次のように定義します。

教師が子どもの実態を的確に把握し、全体や個・グループに応じて、考えを深める上で必要な内容を教え、それを土台に、どの子ども問題解決に向けてじっくり考えたり学び合ったりする授業

##### (2)「教えて考えさせる授業」モデル

では具体的に、どのような学習の流れをとるのか、そのモデルについて説明します。

##### 「教えて考えさせる授業」モデル（南部スタイル）

段階	内容	○教師 と ・子ども
お そ わ る	先行学習 予備的知識	・ 予習の確認や例題を解く ○ 具体物を用いるなど、解き方の説明を工夫する。
た し か め る	理解確認	・ 例題の説明活動（教え合い） ○ 状況に応じて、補足説明や間違いの補正をする。
か ん が え る	理解深化	・ 問題（応用的内容）を解く。 ・ 小グループ等での学び合い活動。 ・ 考え方の全体発表等。 ○ 状況に応じて指導する。
み つ め る	振り返り	○ わかったこと、わからなかったこと 先生への質問など 書かせる

ポイント

新しい学習内容を  
ていねいに教える  
※ 一方的な説明ではなく  
対話的な説明をする。

新しい学習内容について  
理解度確かめる  
※ 基本的な問題を課したり  
説明させたりする。

教えた知識・技能を活用する  
問題解決に取り組みさせる  
※ 誤解しがちな問題、応用、  
発展等の問題をさせる。

わかったことやわからな  
かったことを自己評価させる  
※ 理解状況をとらえて個別  
指導にいかす。

- ・ 教える内容を具体的に絞り込む。・ 教える工夫をする。・ 理解できたか確認をしながら進める。
- ・ 課題理解、課題深化の問題は、教科書の問題でよい。・ 自己評価はできるだけ記述式が望ましい。

### (3) 研究の日程

月	研究内容
4	研究の方向性、内容の確認・共通理解
5	授業研究会（1学級）
6	全体授業研究会Ⅰ（2学級）
7	授業研究会（2学級） 授業研究会の総括
8	研修会（ ）
9	授業研究会（3学級）
10	全体授業研究会Ⅱ（2学級） 授業研究会（2学級）
11	授業研究会（3学級） 公開研究会報告
12	全体研修会（授業研究会の総括）
1	全体研修会（来年度の研究の方向性） 研究紀要の完成
2	公開研究会報告

### (4) 授業研究会について

- ①1人1回、学級を指導した授業研究を行う。
- ②講師招聘は事務所要請 1、2回 市教委は全てについて要請し、市内小中学校には全日程案内する。
- ③全体研（2回予定）は全員で参観し、ブロック研は当該ブロック学年担任および校長・教頭・研究推進委員が参観する（事後研も同様である）。  
講師の招聘がない授業研究の時は、ワークショップ型の事後研究会を行う。  
※ワークショップのマトリックスについては、視点をしぼったものとする。  
また、授業風景をビデオに撮り、事後研で子どもの見取りについて討議するなど工夫する。
- ④授業の記録は、授業者のブロックが対応する（全体の進め方・変容を期待したい子ども等）
- ⑤写真（紀要・記録用）・・・・・・当該ブロック員、研究推進委員等適宜

(5) 授業研究の計画

月	日	曜	全 ブ	低学年	中学年	高学年	ひろの・みなみ
4				全体研修会（今年度の研究について）			
5			ブ	ブロック部会研修会（研究の方向性、内容の確認・共通理解）			
5			ブ				
6			ブ				
6			全				
7				全体研修会（授業研究の総括）			

9			ブ				
9			ブ				
10			ブ				
10			全				
10			ブ				
10			ブ				
11			ブ				
11				公開研究会報告（1）			
11			ブ				
11			ブ				
12				全体研修会（授業研究会の総括）			
1				全体研修会（来年度の研究の方向性） 研究紀要の完成			
2				公開研究会報告（2）			

(6) 指導案の書き方について

今年度より「教えて考えさせる授業」を、授業の方法的な視点にしています。よって、本時に関しては、原則、先に述べた4つのステージでの授業展開をお願いしたいと思います。

しかしながら、かたくなに4つのステージを崩さないことが目的ではなく、子どもの確かな力を伸ばすことが目的です。授業のねらいを明確にし、本研究の主旨に違わなければ、フレキシブルに考えてよいと思います。実際、単元の内容や学習進度、子どもの実態によっては、4つのステージでは組みにくいところもでるかもしれません。そのときは、ブロック長、研究主任にご相談ください。

【指導事例】

第○学年○組 算数科学習指導案

平成21年○月○日 ( )

指導者 ○ ○ ○ ○

(男○名 女○名 計○名)

- 1 単元
- 2 目標
  - (1) (関心・意欲・態度)
  - (2) (数学的な考え方)
  - (3) (表現・処理)
  - (4) (知識・理解)

2 単元について

- (1) 児童観
  - (2) 教材観
  - (3) 指導観
- 3 研究テーマとのかかわり
- (1) ブロックでめざす子ども像
  - (2) 授業の視点

低学年・中学年・高学年でめざす子ども像を考えます。

【めざす子ども像】

- ・基礎的な知識や技能を身につけ、活用していくことができる子ども
- ・自分の考えを持ち、伝え合うことができる子ども
- ・互いに学び合う、学習に意欲的な子ども

に準じて

○確実にとらえさせたい基礎基本

4 指導計画 (全○M 本時○M)

時数 (M)	主な学習内容	◎支援 ◇評価基準 □評価の方法

5 本時の指導

- (1) 目標
- (2) 研究の視点
  - ・仮説1について
  - ・仮説2について
- (3) 展開

具体的な指導方法 (具体物を準備など) の工夫や  
学び合いを活性化させるための手立て 等

評価の方法や、それをどのように具体的に  
授業に生かすか 等

段階	学 習 内 容	○指導上の留意点 ・具体的支援 □評価
お そ わ る		
た し か め る		



かんがえる		
みつめる		

### 6 板書計画

※ 実際の授業では、学習の道筋（4つのステージ）で、どの子にも、今、どこを学習しているかわかるように **おそわる** **たしかめる** **かんがえる** **みつめる** などの マグネットシートなどを準備してはどうでしょうか。

### 7 座席表

- ・特に配慮を要する子

## 5 はげみ学習について

今年度から「教えて考えさせる授業」で学んだ知識・活用する力を、さらに習熟・定着させる意味からも、はげみ学習を取り入れます。

（ただし、はげみ学習の名称や以下の案は、研究推進委員会で再検討します。概略のみ記載）

◎日時 ・毎週火曜日 8：30～8：45（1M 扱い）の時間帯で

- ◎方法
- ・学年オープンで、ただし教室使用
  - ・1 学年下学年のプリントを、時間内に進めるだけ
  - ・必要枚数印刷しておき、順番に、もしくは自分のやりたいところから
  - ・丸付けは、自分で。  
1 回で合格したら、合  
間違ったところは先生に持って行き、その後、次のプリントに進む。
  - ・学年に、担外より 1～2 名入ってもらい、採点者となる。（全校職員体制で）
  - ・プリントは、個人ファイル（学年当初に購入）に閉じておき、家庭や学びのルームでの復習等に活用する。
  - ・ファイルに進度表を貼り、励みとさせる。
  - ・すべてをクリアした児童には、先生としての活躍の機会を与える。異学年交流。

## 6 「家庭学習の手引き」について

今年度から「教えて考えさせる授業」で学んだ知識・活用する力を、さらに習熟・定着させる意味からも、家庭学習を奨励していきます。基本的には、各学級での宿題の量（時間）・やり方にかまわないのですが、ある程度の共通理解（フロア間等）をし、家庭学習の啓蒙を図っていきましょう。

(1) 「手引き」作成…研究推進委員会で

(2) 「手引き」の内容

- ・具体的な学習時間や勉強の方法を例示する。（各ブロックの発達段階において）
- ・復習のみならず、ちょっとした予習などもできるようにする。算数以外の教科も例示する。

(3) 家庭への学習啓蒙

- ・PTA 総会時に、
- ・学級懇談時に、
- ・学年だよりに、
- ・連絡カードの工夫で

## 7 校内掲示について

従来の各学年の行事写真や習字、絵のほかに、子どもたちにとって学習の参考になるような掲示を行い、自然と「学びの楽しさ」が醸成されるような雰囲気を校内に創り出していきましょう。

(掲示による学び合い)

- ・場所は、現在、学年担当として割り当てられている所。
- ・学習内容に関する掲示を、各学年で掲示する。（従来、教室環境で掲示していたようなもので、張替えとして掲示しなくなったようなものでも全校に紹介するなんていうのも OK です）
- ・月に1回程度は、変え、子どもたちに新鮮味を味わわせる。

例

- ・上手なノートや展示（掲示）や現在学習しているところの内容や写真 など 学年の創意工夫で

○年生 算数ノート名人の紹介！

勉強の日付がきちんと書いてあるね	色をうまく使っていて、わかりやすいね	ポイントを自分の言葉でまとめているね

○年生 かけ算の筆算をおぼえたよ

$\begin{array}{r} 43 \\ \times 12 \\ \hline 66 \\ 43\phantom{0} \\ \hline 496 \end{array}$	最初は2×3だよ
	1×3の場所が大事なんだ
	みんな間違えずにできたよ

## 8 学びのルーム活用について

※ 研究推進委員会および学力向上部との話し合いで決定（現在の所、未定。後日再提案。）

## 9 学習規律・ルールづくりについて

学習規律を、フロア間等で、統一することにより、学びの構えを築いてはどうでしょう。

例えば、ノート指導。（日付を書く。まとめは赤で囲む。間違いは思考の宝物とし、消しゴムを使わない。etc…）

# 家庭学習の手引き（5・6年生用）



寒河江市立南部小学校

## ◆勉強を始める前に

- 勉強するときは、テレビなどを消しましょう。
- 机の上をかたづけましょう。
- 学校からのプリントをお家の人に出しましょう。



## ◆勉強時間と内容について

- 5・6年生の勉強時間のめやすは60分です。
- まず、本読みと宿題をきちんとやりましょう。
- 宿題が終わったら、以下のような自主勉強にも取り組みましょう。

## ◇本読みでは…

- ・国語の教科書、かんなんテキストなど、すらすら読めるようになるまで練習しましょう。
- ・大きな声で、ゆっくり、はっきり読みましょう。
- ・すらすら読めるようになったら、会話文など、気持ちをこめて読みましょう。
- ・登場人物の気持ちや場面の様子、段落に何が書いてあるか、考えながら読みましょう。

## …自主勉強の進め方…

### ◇国語の勉強では…

#### 【書く勉強】

- ・教科書の文をていねいにノートに写してみよう。
- ・習った言葉を使って、短い文を作ってみよう。



- ・今日あった出来事などを作文にしてみましょう。

### 【漢字の練習】

- ・新しく習った漢字や覚えていない漢字を練習しましょう。
- ・漢字のへんやつくり、筆順に気をつけて練習しましょう。

### 【読む勉強】

- ・読書がんばりましょう。（とにかくいろんな種類の本を）
- ・かんなんテキストで、自分の目標を決めて暗礁しましょう。



## ◇算数の勉強では…

- ・5分でも10分でも良いので、教科書の予習をしてみましょう。
- ・今日習ったことを、自分で説明できるようにしながら、ノートに復習してみましょう。
- ・計算ドリルなど進んでやりましょう。（自分で○つけも）
- ・テストなど、自分でまちがった問題は、どこがまちがったのかノートに説明してみましょう。



## ◇その他の勉強では…

- ・都道府県名や県庁所在地など、確実に覚えましょう。
- ・ローマ字で、いろんなものを書いてみましょう。
- ・社会や理科で習ったことを、もう一度ノートに復習してみましょう。

## ◆勉強が終わったら

- 勉強したことを、お家の人にみてもらいましょう。
- 各学年の連絡カードに、しるしをもらいましょう。
- えんぴつをけずり、明日の準備をしましょう。



## お家の方へ

各教科の「予習」や「復習」をすることで、授業で学んだ力がよりいっそう確実にになります。できるだけお子さんの学習に目を通していただければ幸いです。疑問な点、不明な点、学校への要望（ここがよくわかっていないようだ）等、連携を密にして、お子さんの学力を高めていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

## 10 研究のまとめについて

### (1) 作成するもの

#### ① 研究紀要

1年間の研究の軌跡を明確にし、その成果を文章化する。

- ◇ どんなことに留意して、授業を進めてきたのか、共通の視点や具体的な手立てについて明らかにする。
- ◇ 研究、研修についての、学校としての意図、内容、方法、研究結果などを明確、的確に表す。
- 「明らかになったこと」を具体的な例示に基づきながらも、端的な言葉で、しかもわかりやすい表現方法を使って示す。
- 「有効でわかりやすいまとめ」とするために次の手法を取り入れる。
  - ・ 研究の内容、方法を構造的に表すために、図化を積極的に取り入れる。図化を進め、見出しやレイアウトを工夫することによって、読者にわかりやすさを提供できる。
- 校外に配布し、指導を仰ぐ。両面刷り（用紙：上質紙）

あいさつ

校長

目次

鈴木伸

#### 1 研究の概要

鈴木伸

##### ①本校の概要

#### 2 研究主題設定の理由（児童の実態、社会的要請、研究の経過）

##### ◎研究の趣旨を明確にする。

- ・ 児童のどのような変容を期待する研究であったのか。
- ・ 指導の改善により、変容させたいと考える児童像を描く。

#### 3 研究の内容

##### ◎研究の全体構想

- ・ 研究の仮説・・・児童が変容する条件や手立て
- ・ 具体的な手立て・・・仮説を立証する方法の明確化

##### ◎研究の方向性

- ・ 研究の重点について

##### ◎研究組織・実践計画

#### △留意点

- ・ 抽象的な表現は避けたい。
- ・ 目標、内容、方法が統一的に把握できるように。
- ・ 箇条項目に番号、記号を付ける（2項目以上の列記の場合）。
- ・ 研究目標と成果とを対比して表す（抽象的美辞は使わない）。

#### 4 研究の成果と課題

鈴木伸

あとがき

教頭

研究同人

鈴木伸

奥付

鈴木伸

- ・ 言葉遣いに留意し、正確な教科用語を用いる。概ね学習指導要領のなかの用語を参照する（文体は常体）（指導書または総則を側において書く）。

#### ○その他の執筆・役割分担

表紙・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・鈴木伸

とびら表紙・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・鈴木伸

目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・鈴木伸

あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・校 長  
 あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・教 頭  
 奥付け・・・・・・・・・・・・・・・・・・鈴木伸  
 送 付・・・・・・・・・・・・・・・・・・教 頭

(2) 製本部数

教職員分	30	贈呈分	21	
学校保存分	5	新任者分・予備	10	合計68部

○各自 実践についてまとめる（1実践 A4版 2ページ）。

授業研究をした単元終了後に直ちにまとめ、提出。

○体裁について

フォント10.5ポイント 明朝体 タイトルのみ14ポイント

余白 上25mm 下30mm 右25mm 左25mm

字数40字 行数40行

校内印刷 横組1段 表紙印刷・製本（業者依頼）

○ 項目について

<p>タイトル（その実践で伝えたいことを的確な言葉で）          ～〇年 〇〇科 「〇〇〇〇」（単元名）～  <span style="float: right;">指導者名</span></p> <p>1 授業展開の基本的な考え方          その授業の中で、授業者が意図したこと。</p> <p>2 目標</p> <p>3 実践について          ○ 実践の経過 実践からの学び          ○ 視点について</p> <p>4 成果と課題          ＊写真は1枚。大きさは、縦1ページの4分の1を超えない。          横1ページの2分の1を超えない。</p>
---

\*原稿作成締め切り 平成22年1月上旬

②指導案集 研究主任が清書判を保存する。

【研究推進にあたって参考とした資料等】

- ・学ぶ意欲とスキルを育てる 市川伸一 図書文化
- ・「教えて考えさせる授業を創る」市川伸一 図書文化
- ・自ら学びを高める子を育てる「教えて考えさせる授業」～横浜本町小の挑戦～ 明治図書
- ・教えて考えさせる授業～学力向上と理解深化をめざす指導プラン～ 市川伸一・鏑木良夫 図書文化
- ・神奈川県横浜市立本町（ほんちょう）小学校 研究概要
- ・埼玉県新座市立栄（さかえ）小学校 研究概要
- ・宮城県黒川郡大衡村立大衡（おおひら）小学校 研究概要
- ・ベネッセ教育開発研究センターHP
- ・